

平成 28 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」

特定非営利活動法人認知症フレンドシップクラブ

【設立年月日】2007年3月31日

【授賞理由】

認知症の人にやさしいまちづくりを認知症の人とともに行う活動は、認知症の人に勇気を与えるだけでなく今まで認知症の人とかかわったことがない人々の認知症に対する社会の意識を変える一翼を担いました。医療や介護が充実しているだけでは解消できない、認知症になってもそれまでと変わらない暮らしができる地域環境づくりに努力されるその姿勢はいつの時代であっても重要なものです。

【団体概要】

北海道から沖縄まで全国 17 カ所に事務局（支部）があるネットワーク団体。それぞれの地域において事務局がハブとなり、認知症の当事者・家族、行政、福祉関係者、商業者、教育関係者などをつなぎ、認知症になってもそれまでと変わらない暮らしができる地域環境づくりを推進している。

【事業活動】

全国事業として次のものを開催している。

1. 認知症の人と一緒にタスキをつなぐリレーイベント「RUN 伴」の開催。2015年には、北海道から九州まで8,000人が参加（うち当事者655人）
2. 認知症地域ネットワークフォーラムの開催（全国8カ所）
3. 認知症まちづくりファシリテーター講座（16地域40名参加）

また、各地のローカル事業として次のものを開催している。

1. 認知症カフェ、認知症サポーターステップアップ講座
2. 認知症フレンドシップサポーターの養成・マッチング
3. 認知症の人が安心して利用できるお店・スポットの紹介、など

【業績および功績】

認知症となった人が感じる生きにくさや暮らしの中の困難は、医療やケアが充実しているだけでは解消されないことが少なくない。認知症の人をとりまく、家族や、地域の人、職場の人々、意識や行動のあり方に、暮らしの質は大きく左右される。本団体は、認知症の人や家族はもとより、今まで、認知症の人と関わったことがなかった職種やセクターの人も巻き込みながら、全国各地で、当事者と一緒にまちづくりを推進する動きが生まれることを目的にしている。

活動の特徴は、認知症の人に対し何かをしてあげる／してもらおうという関係を超え、認知症の

人と一緒にまちづくりを進めていくという点である。理念を共有する実践者が全国的なネットワークとなり、まちづくりのための方法論を学び、各地でユニークなチャレンジが同時多発的に生まれている。

RUN 伴・フォーラム・まちづくりファシリテーター講座などの事業を通じて、認知症の人にやさしまちを作ろうと、手を上げる地域が増え、ネットワークが形成されてきている。また、こうしたネットワークの協力を通じて、全国的な調査も実施され、まちづくりの施策推進のためのエビデンス創出にも寄与している（平成 26 年度「認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業」）。